緑の担い手を目指そう!
にいがた山しごと情報誌 **Niigata Forestry Magazine**

取材記

平成23年11月から平成24年2月までの約4ヶ月間にわたり、
新潟県内各地の林業事業体を取材して、この冊子ができあがりました。
その製作スタッフによる「取材記」をお届けします。
取材を通してスタッフが肌で感じた思いを、ぜひご覧ください。

＜スタッフ紹介＞

私たちが取材にお伺いしました!

【ライター】
Tomoko Kuwabara
桑原知子

取材を重ねるごとに林業に魅了されています。現場の皆さんの笑顔もとても印象的!

【ライター】
Yoshinori Watanabe
渡部吉則

福島出身です。新潟の豊かな自然、温かい人柄、ご当地グルメに浸っています!

【カメラマン】
Shinji Nakazawa
中沢真二

林業に携わる皆さんの頑張っている様子を写真を通して伝えていきたいと思います!

阿賀町
H24.2.29 取材

有限会社 中惣林業

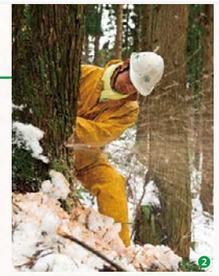
林業事業体の取材もこの日がラスト。そしていつの間にか林業にどっぷり浸かっている自分。最後は見どころ盛りだくさんと聞いて、若干興奮気味で現地に向かいました。「寒伐り」や搬出法など(詳しくは本誌で!)、雪国の林業ならではのメリットがいくつかあって、不利なことだけじゃないと安堵した次第。この森で110年も生き続けた大木が、ゆっくりと倒れていく様を見ていて、何か神聖な儀式に立ち会えたような気持ちになりました。

❶大木が雪けむりを上げて倒れる。一瞬、静寂な森がひっくり返るような爆音と地響きに包まれた ❷倒した木に腰かけ一服。右が伐倒した"親方"飛田野和男さん ❸豪雪地域特有の根曲りも一定の年数を超えると真っすぐ戻り美しい立ち姿に ❹履帯が外れた37年選手のブルドーザーを全員で修理にあたる。5人にとっては大事な仲間の1人 ❺ログハウス購入を機に40歳を過ぎて林業の世界に飛び込んだ大久保さん ❻太平洋沿岸育ちの渡部が初めて見たナマかんじき!

五泉市
H23.11.15 & H24.1.20 取材

中蒲みどり森林組合

中蒲みどり森林組合は2回に渡っての取材でした。1回目は、木材市の見学。こちらでは毎月、木材市が開催されますが、この日は年に一度の「国産優良材展示特別市」の日でもあり、たくさんのお客さんが集まっていました。2回目の取材は1月下旬。雪の積もる現場です。見慣れたはずの伐採や重機を使っての作業も、雪と寒さでいっそう厳しく映りました。そんなとき「私達は厳しい仕事をしているからこそ、笑顔が大事なんです」と話してくれた鈴木清さん。とてもすてきな笑顔でした!



❶現物を確認する皆さん。スギがほとんどだが、マツやケヤキ、サクラなども ❷雪山での伐採。冬場は木が凍ると切りにくいという ❸林業歴40年の大ベテラン、鈴木清さん ❹木材をつかんで方向を360度変えられるグラップル。これまで3人必要だった積み込み作業が1人で可能に ❺木材市に並ぶ木について説明してくれた組合の桐生要一さん ❻木材市は入札方式。気に入った木の番号に単価を記入した入札書を入れる

現場:柏崎市 H23.12.2 取材

大谷林業

「大谷さんの伐採現場は見応えがありますよ」と、取材前から話を聞いていましたが、本当に驚きました。まるで映画のロケ地のような尾根に取り付いている現場。山頂からおそるおそる覗いた先には広大なパノラマが広がり、眼下に小さく、社長の川又さんの姿が。このように傾斜が急な山では、作業道を作ることが困難なので架線を使って集材するのですが、厳しい現場での仕事が可能なのは、高度な架線技術を持つ大谷林業だからこそ。素晴らしい仕事に感動しました。

❶川又さんはどこにいる?!(ヒント左下)真ん中に見える架線を使って川又さんが切った木を山頂に運ぶ ❷「すごい現場ですね」と話すが「うちはいつもこんなもんだ(笑)」 ❸山頂から下で作業する川又さんを見る、息子の一芳さん ❹ここで切った木について説明してくれる川又さん ❺集材機を運転する一芳さん。荷を動かすタイミングなど、下の川又さんと無線でやりとりする

村上市
H23.11.1 取材

村上市森林組合

まるで第1回目の取材を祝福するかのように、11月とは思えないほど、お天気に恵まれた日。新潟県内でも林業の盛んな地域として知られる山北エリアに向かいました。弥彦山登山さえギブアップした軟弱な私は、整備されていない自然の森に足を踏み入れるのも、林業の仕事を実際に見るのも初めての体験。森の美しさに、そして森を守る皆さんの仕事ぶりに圧倒されっぱなしで林業の素晴らしさを実感した一日でした。

❶村上市森林組合の皆さん ❷倒された木の切り口を見て「良い切り方だった」と話す、村上市森林組合の大滝さん ❸「森で仕事をしていると森林浴もできるし、心が穏やかになる」と話してくれた佐藤さん ❹木漏れ日が差し込む静謐な森は、まさに息を飲む美しさ ❺杉を切った跡地の焼畑でできた立派な大根と赤かぶをおみやげにいただいた ❻木が倒れる瞬間を初めて目にして、大コーフン!

佐渡市
H23.11.28 取材

両津東部森林組合

朝6時出港の佐渡汽船に乗るため自宅を4時半に出発。福島出身の渡部としては初佐渡で、朝から興奮気味でした。客室に入るや否や、皆さん毛布をかけて寝始めたことに驚きつつ、自分はデッキに出て潮風を浴びるも寒くてすぐに客室に戻り、同様に「Zzz…」でした。佐渡の取材で気になったのは竹林の問題。かつては竹製品で栄えた佐渡も、現在は需要がなくなり手入れもされず竹は繁茂し枯れる一方とのこと。工業化や効率化の問題がここにも見てとれました。

❶両津港から車で10分弱。イメージになかった海に面した森林組合 ❷中山組合長に取材。自然の循環、第一次産業の保護、佐渡の産業史などの話を伺う ❸足場の悪い急斜面での除伐作業 ❹鬱蒼として光も入らない竹林。理想的な竹林は傘を差して歩けるぐらいとのこと ❺ベテランの親松さんからチェーンソーの説明を受ける ❻松くい虫防除作業中。トキはアカマツに巣を作りやすく、アカマツの保護も重要な佐渡の仕事